

遺伝子組換え食品の 健康影響評価について



新しい食品の開発の歴史



従来も、生物(バイオ)を利用して新しい食品を作ってきた
(遺伝子変異や自然に起きた遺伝子組換えの利用)



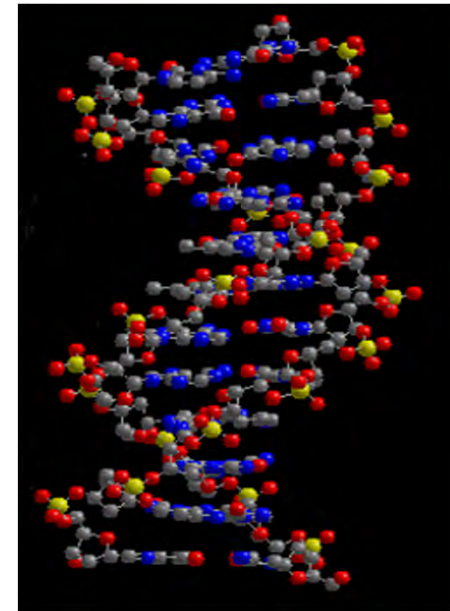
遺伝子組換え技術の登場

分子レベルでの育種

目的とする形質の意図的・効率的な改良が可能

DNA(遺伝子)とは？

- DNAは遺伝子の本体である
- 遺伝子の情報を基にタンパク質が作られる
- DNAは全ての生物が持っている
- 我々は、DNAを毎日大量に食べている
- 食べたDNAは、消化・分解される



遺伝子組換え技術とは？

- 酵素等を用いた切断及び再結合の操作によって、DNAをつなぎ合わせた組換えDNA分子を作製し、それを生細胞に移入し、かつ、増殖させる技術。

遺伝子組換え生物とは？

遺伝子組換え生物 = GMO (Genetically Modified Organism)
= LMO (Living Modified Organism)

非組換えダイズ(4回農薬散布)

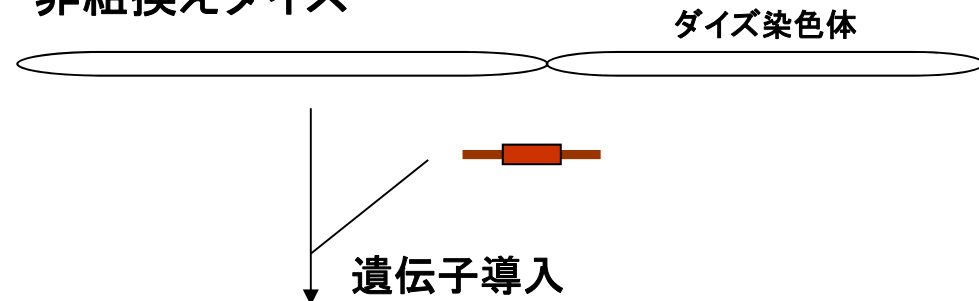


遺伝子組換えダイズ(2回農薬散布)

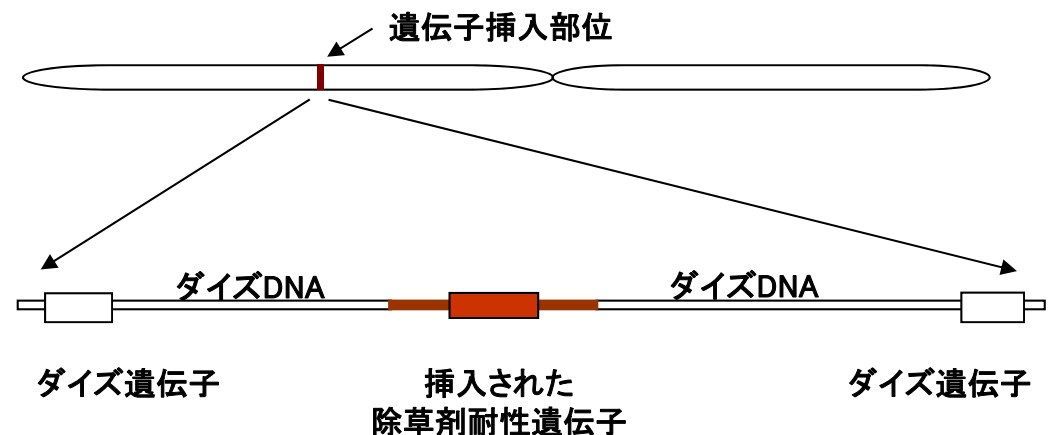


除草剤耐性ダイズの例

非組換えダイズ



遺伝子組換えダイズ



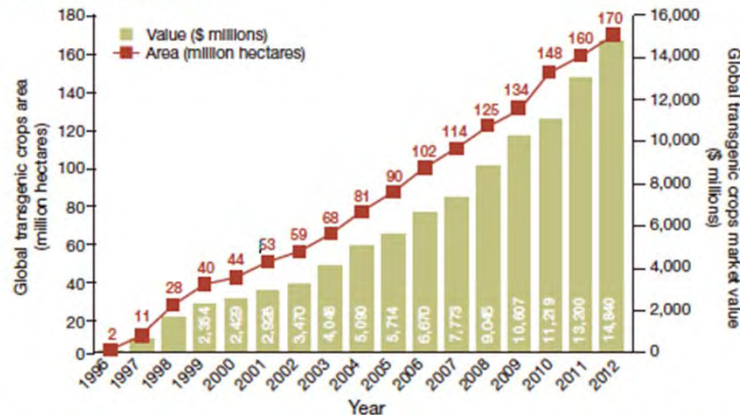
1. 遺伝子組換え食品の現状

食品の確保と安全

食の多様化と各国の対応
需給量 --- 気候の変動
品種改良 --- 組換え作物

Historical global area and value of transgenic crops

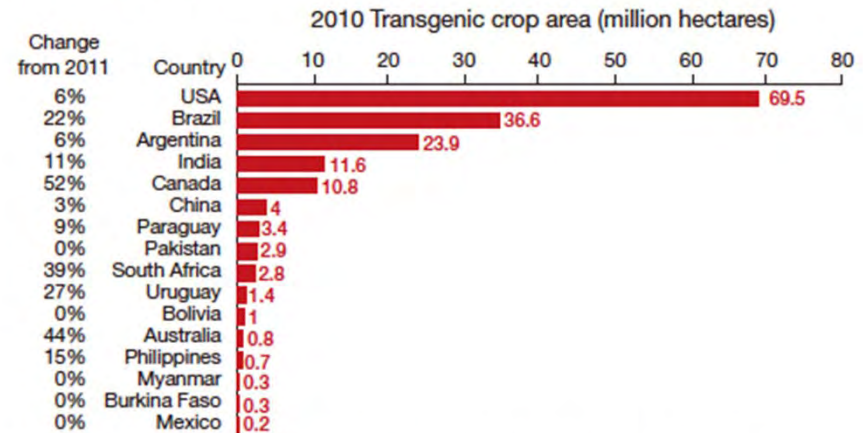
Since 1996, there has been a 100-fold increase in global hectareage to 170.3 million hectares.



Source: International Service for the Acquisition of Agri-Biotech Applications. Value data are explicitly from seeds and licensing revenue rather than from 'crops' themselves.

Global area of transgenic crops by country

Transgenic acreage in South Africa took off last year; plantings continued double-digit growth in Brazil and Canada.

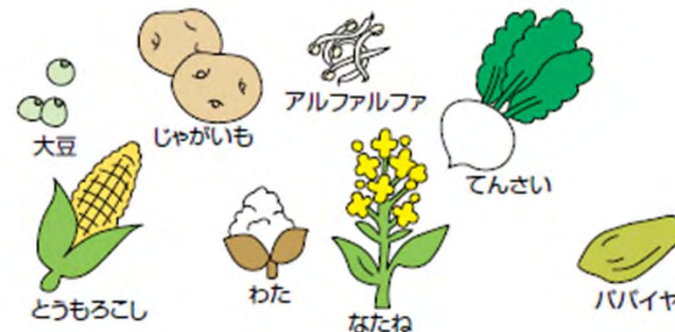


Source: International Service for the Acquisition of Agri-Biotech Applications.

日本で食品として安全性審査が終了し、公表された遺伝子組換え作物

遺伝子組換え作物の種類（283種類）

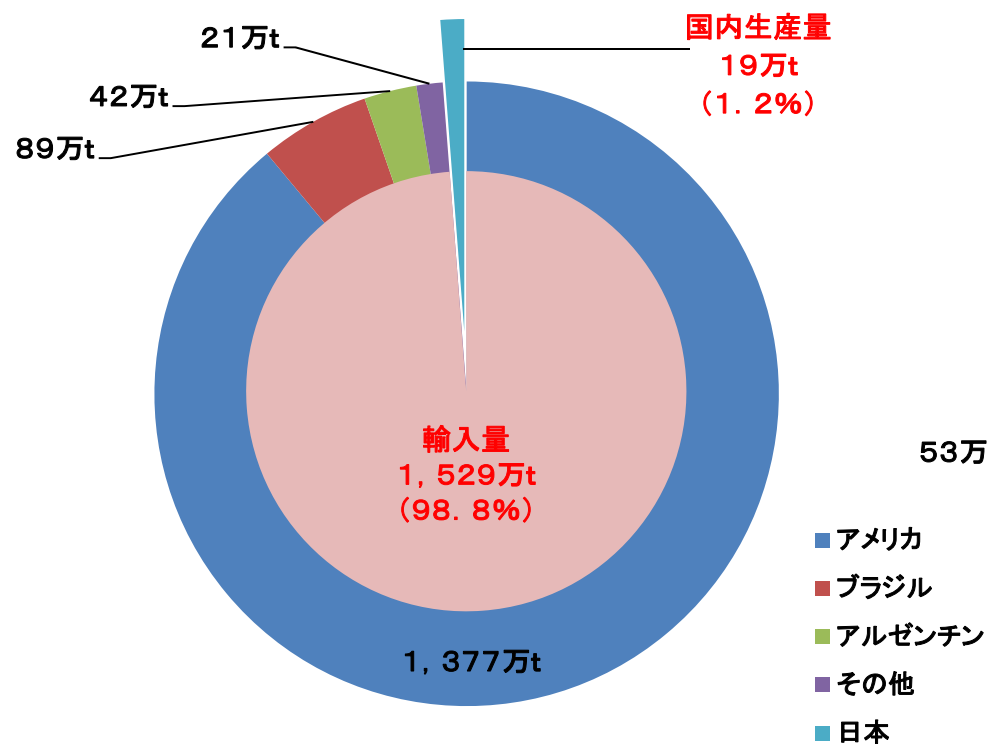
大豆 (14種)	除草剤の影響を受けない（7種）、高オレイン酸（2種）、害虫に強い（1種）、害虫に強く、除草剤の影響を受けない（1種）、高オレイン酸形質で除草剤の影響を受けない（1種）、低飽和脂肪酸・高オレイン酸で除草剤の影響を受けない（2種）
とうもろこし (198種)	害虫に強い（14種）、除草剤の影響を受けない（10種）、高リシン（1種）、高リシン形質で害虫に強い（1種）、害虫に強く、除草剤の影響を受けない（157種）、耐熱性アミラーゼ産生（1種）、乾燥に強い（1種）、その他（13種）
じゃがいも (8種)	害虫に強い（2種） 害虫及びウイルスに強い（6種）
なたね (19種)	除草剤の影響を受けない（15種） 除草剤の影響を受けず、雄性不稔（1種） 除草剤の影響を受けず、稔性回復（3種）
わた (37種)	除草剤の影響を受けない（9種） 害虫に強い（6種） 害虫に強く、除草剤の影響を受けない（22種）
てんさい	除草剤の影響を受けない（3種）
アルファルファ	除草剤の影響を受けない（3種）
パパイア	ウイルスに強い（1種）



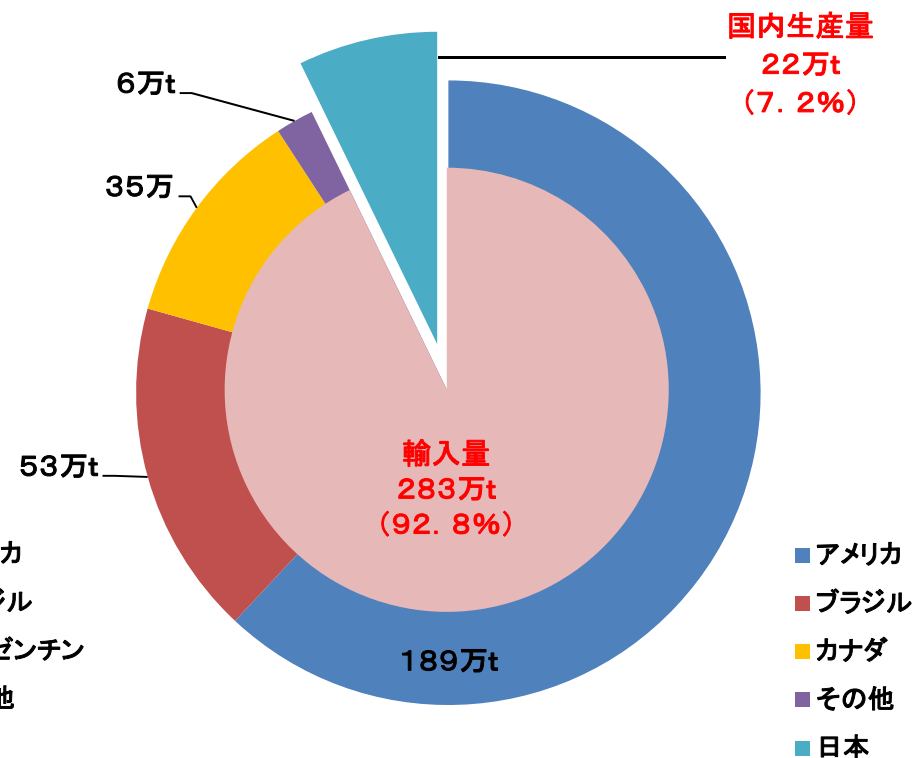
厚生労働省医薬食品局食品安全部（平成25年10月17日現在）

国内生産量・輸入量の割合

トウモロコシ



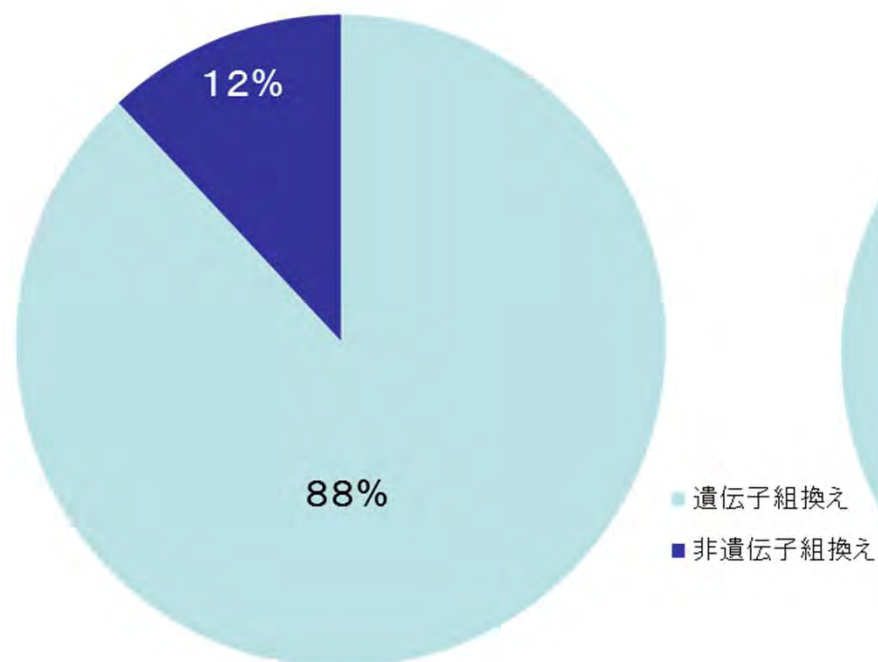
大豆



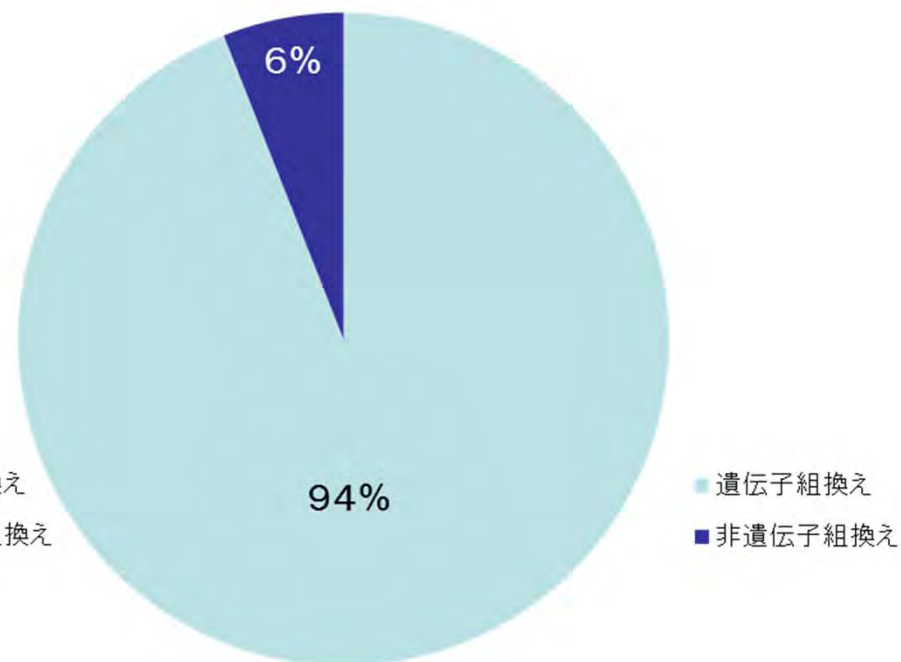
資料:農林水産省統計情報(2011年)

遺伝子組換え農作物の割合(アメリカ合衆国)

トウモロコシ



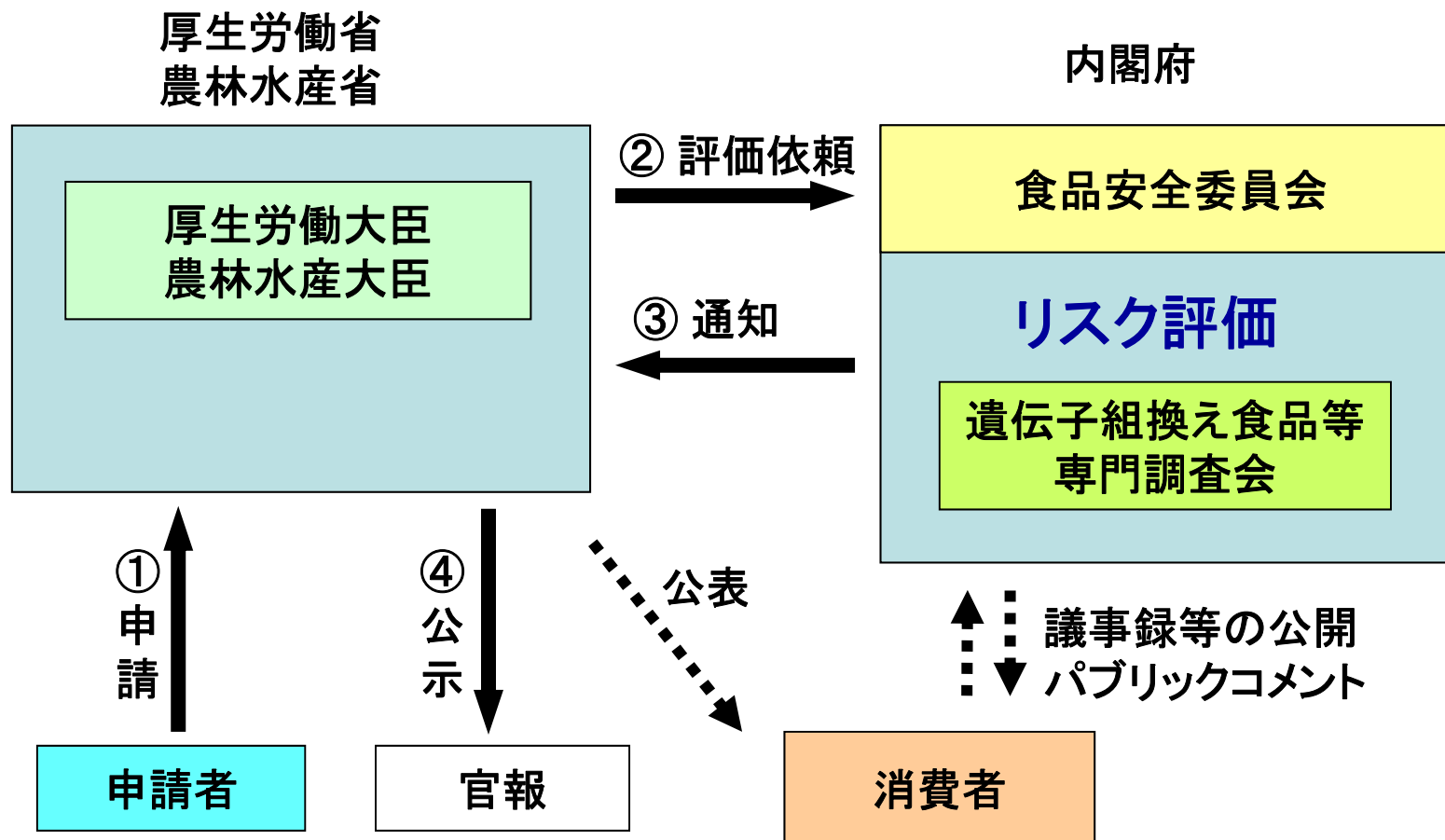
大豆



参考: USDA(2011年)

2. 遺伝子組換え食品の安全性評価

遺伝子組換え作物の食品・飼料としての安全性評価 (行政の枠組み)

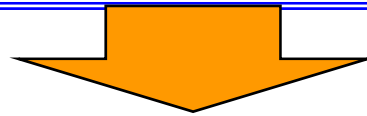


■ 環境への影響評価 → カルタヘナ法に則って、別途評価される(農林水産省・環境省)

遺伝子組換え食品の安全性評価の原則

評価の必要条件(出発点)

組換える前の既存の作物(食品)と比較できて、
相違が明らかであること



(食品の安全性を、全ての成分ごとに行うのは困難)

- 既存の食品を比較対照にして、相違点に着目
- 組換えDNA技術によって付加されることが予想される全ての性質の変化について、その可能性も含めて、安全性を評価

比較対象と同等の安全性 → 食品としての使用を認める

食品安全委員会における個別の遺伝子組換え食品等の安全性評価

厚生労働省より依頼

農林水産省より依頼

食品安全委員会が決定した「安全性評価基準」及び「考え方」に則って評価

食品

「遺伝子組換え食品(種子植物)の安全性評価基準」(2004.1.29)

「遺伝子組換え植物の掛け合わせについての安全性評価の考え方」(2004.1.29)

「遺伝子組換え食品(微生物)の安全性評価基準」(2008.6.26)

飼料及び飼料添加物

「遺伝子組換え飼料及び飼料添加物の安全性評価の考え方」(2004.5.6)

添加物

「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価基準」(2004.3.25)

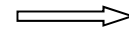
「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物のうち、アミノ酸等の最終産物が高度に精製された非タンパク質性添加物の安全性評価の考え方」(2005.4.28)

遺伝子組換え食品(種子植物)の安全性評価基準(概要)

- 比較対象となる既存の作物(宿主)があり、**宿主と遺伝子組換え作物の相違点が明確**であるか。
- 組換え作物の食品としての**利用方法**
- 宿主の**食経験**や有害物質産生能
- **導入**される遺伝子及びその**産物(タンパク質)の安全性**
 - 導入遺伝子の性質が明らかであるか。遺伝子産物に毒性がないか。
 - 遺伝子導入方法が明らかであるか。
 - 抗生物質耐性遺伝子の場合、耐性菌をふやさないか。
- **組換え作物**の食品としての安全性
 - 導入後の遺伝子**に変化がないか。
 - 導入コピー数、挿入位置及び周辺配列が明らかであるか。
 - 発現部位とその発現量
 - 新たな発現可能なオープンリーディングフレームができていないか。
(できている場合、その産物の毒性及びアレルギー性は。)
 - 宿主の代謝系に大きな変化をもたらさないか。
 - アレルギー誘発性**がないか。
 - 栄養**成分**、有害成分、栄養阻害物質等がもとの作物と比べて大きく**変化**していないか。

遺伝子組換え食品(種子植物)の 安全性評価のポイント

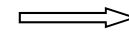
・もとの植物(宿主)の情報
(食経験、可食部位、有害成分)



宿主の安全な食経験

もとの植物の性質が明らか

・導入遺伝子の情報
(供与体生物、塩基配列等)



導入する遺伝子の安全性

作られるタンパク質から予想される
影響が明らか

・遺伝子産物(タンパク質)の情報
(機能、有害性、抗生物質耐性、
アレルギー誘発性、代謝影響)

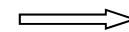
・組換え作物の遺伝情報など
(遺伝子の導入法、挿入位置と周
辺配列、安定性、発現部位、発現
量)



挿入された遺伝子の安全性

導入した遺伝子による予想外の
影響がない

・組換え作物の成分情報
(栄養成分、有害成分、栄養阻害
物質等の含量変化)

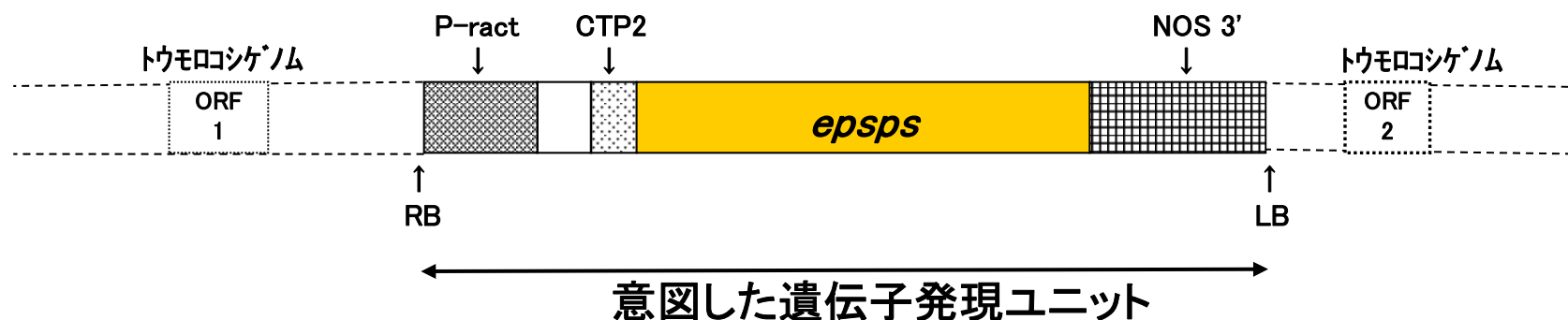


宿主等との比較

有害成分が増えていない
組換え作物全体への影響がない

挿入遺伝子とその近傍配列

(非意図的影響の有無の確認)



[チェックポイント]

- **意図した配列**が導入されたか？
- 周辺配列に転写される可能性のあるオープンリーディングフレームがあるか
- 目的外のタンパク質が発現される可能性がないか
- 宿主の遺伝子が破壊された可能性がないか

主要作物で含量変化に注意すべき成分(有害成分 や栄養阻害成分等)

既にリストアップされている

OECD(経済協力開発機構)コンセンサス文書

ILSI(国際生命科学研究機構)データベース

その他の多数の文献

作物	要注意成分
ジャガイモ	トリプシンインヒビター, グルコアルカロイド類, etc.
ダイズ	トリプシンインヒビター, レクチン, フィチン酸, イソフラボン類, アレルゲン, etc.
トウモロコシ	フィチン酸, etc.
ナタネ	エルシン酸, グルコシノレート, etc.
ワタ	ゴシポール, マルバリン酸, ステルクリン酸, ジヒドロステルクリン酸, etc.

導入タンパク質のアレルギー誘発性 (アレルゲン性)評価の必要性

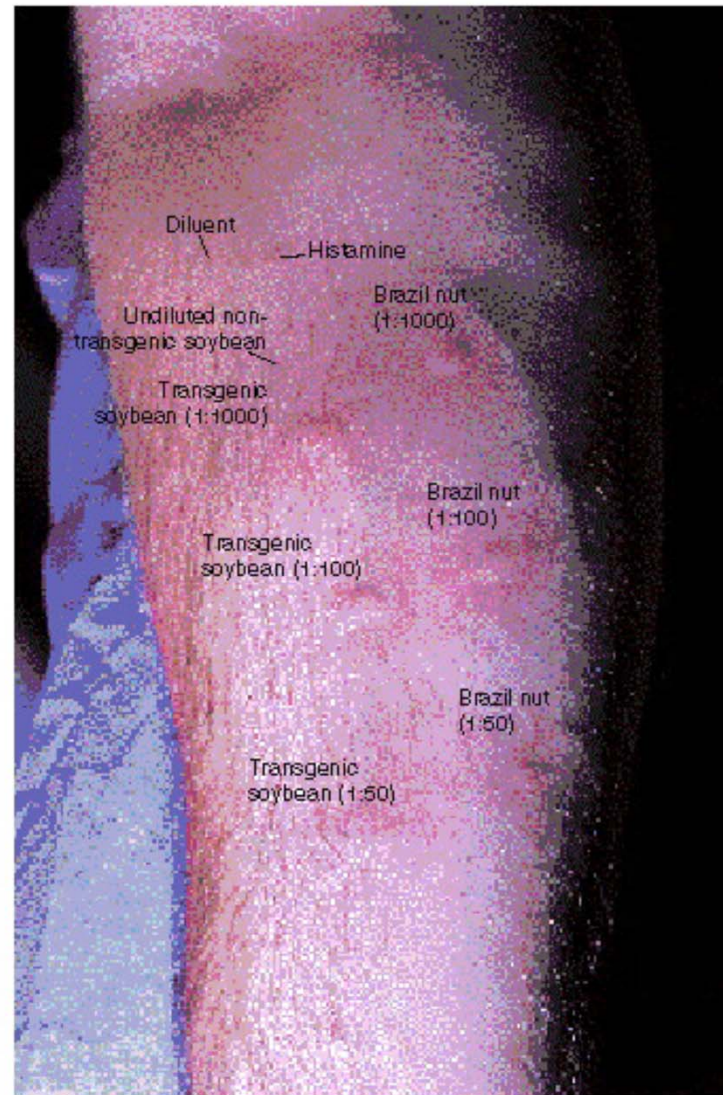
かつて、栄養強化の目的で、メチオニン含量の高いブラジルナッツ 2S-アルブミンが導入されたダイズが作製された(Townsend and Thomas, 1994)。

ところが、ブラジルナッツには強いアレルゲン性が知られており、2S-アルブミンが、主要アレルゲンであることが分かった(Nordlee et al., 1996)。



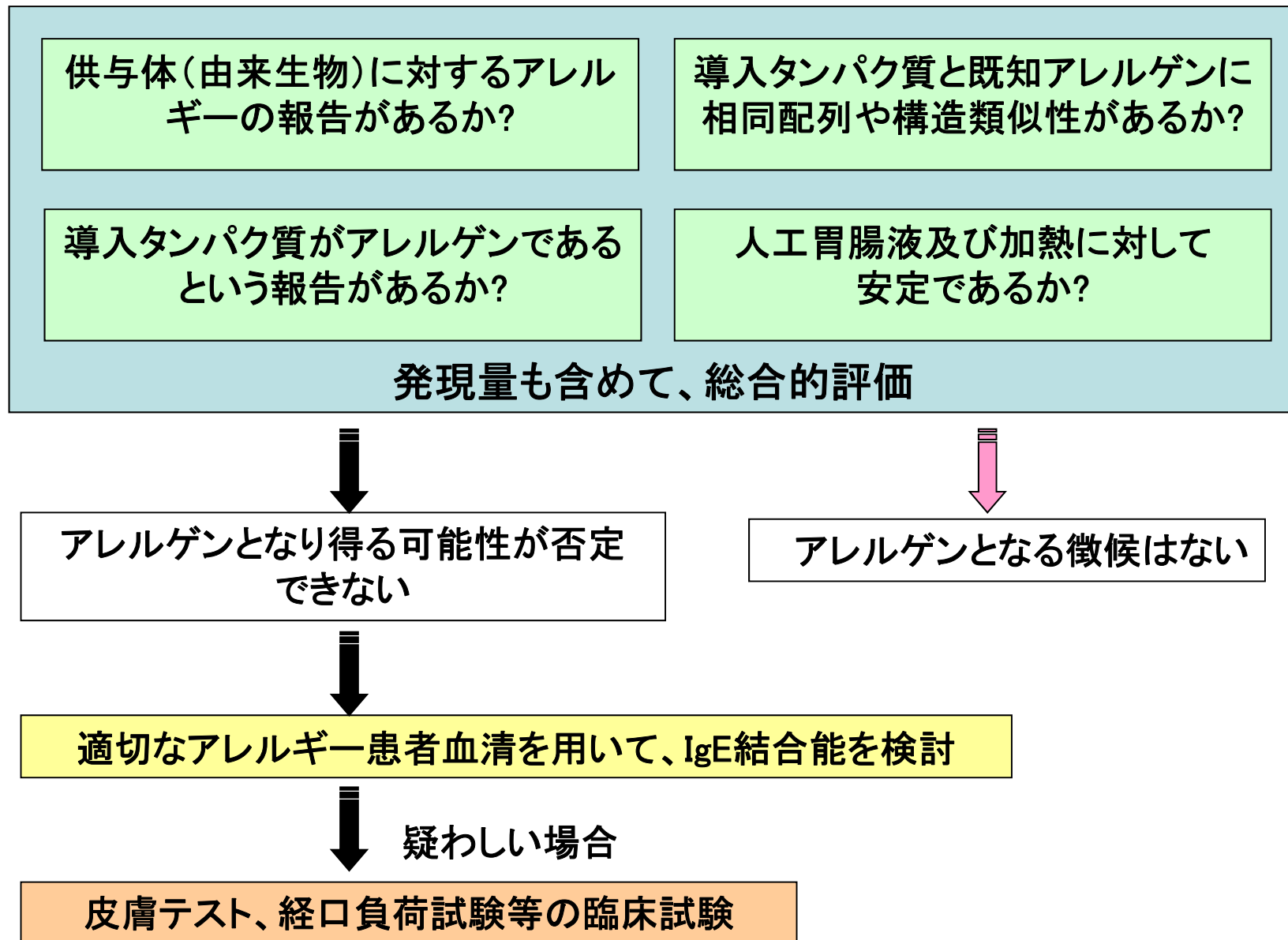
開発は中止された。このようなアレルギー誘発性の高い作物が上市されないよう、事前の十分なアレルギー誘発性評価の重要性が再認識されるに至った。

ブラジルナッツ 2S-アルブミン アレルギー



Nordlee et al., 1996 N Eng J Med 334 688

新たに導入されたタンパク質のアレルギー誘発性の評価



遺伝子組換え食品(種子植物)に導入された主なタンパク質

導入タンパク質 (供与体生物)

遺伝子組換え作物

害虫抵抗性

Cry1Ab トキシン (*Bacillus thuringiensis* subsp. *kurstaki*)
 Cry1Ac トキシン (*Bacillus thuringiensis* subsp. *kurstaki*)
 Cry1F トキシン (*Bacillus thuringiensis* subsp. *aizawai*)
 Cry2Ab トキシン (*Bacillus thuringiensis* subsp. *kurstaki*)
 Cry3A トキシン (*Bacillus thuringiensis* subsp. *tenebrionis*)
 Cry3Bb トキシン (*Bacillus thuringiensis* subsp. *kumamotoensis*)

トウモロコシ
 トウモロコシ、ワタ
 トウモロコシ
 ワタ
 ジャガイモ
 トウモロコシ

除草剤耐性

CP4 EPSPS (グリホサート耐性) (*Agrobacterium tumefaciens*)

 PAT (*pat*) (グルホシネート耐性) (*Streptomyces viridochromogenes*)

 PAT (*bar*) (グルホシネート耐性) (*Streptomyces hygroscopicus*)

ダイズ、テンサイ、
 トウモロコシ、ナタネ、
 ワタ
 ダイズ、トウモロコシ、
 ナタネ
 テンサイ、トウモロコシ、
 ナタネ

これらのタンパク質の安全性は、十分に調べられている

情報源

内閣府 食品安全委員会 遺伝子組換え食品等専門調査会
⇒ <http://www.fsc.go.jp/senmon/idensi/index.html>

農林水産省 農林水産技術会議事務局

「遺伝子組換え技術の情報サイト」
⇒ <http://www.s.affrc.go.jp/docs/anzenka/index.htm>

厚生労働省「遺伝子組換え食品ホームページ」
⇒ <http://www.mhlw.go.jp/topics/idenshi/>

食品安全委員会ホームページ

<http://www.fsc.go.jp/>

The screenshot shows the homepage of the Food Safety Commission of Japan. At the top, there is a header with the logo, name in Japanese and English, and navigation links. Below the header, there are sections for 'Important Information' (重要なお知らせ) and 'Notice' (お知らせ). The 'Important Information' section lists several topics related to BSE, avian influenza, and food safety. The 'Notice' section lists recent updates. On the right, there is a section titled 'FSC For You' with links for consumers, mothers, children, and food safety. Below these, there is a large red button that says 'Click! >>'. A yellow arrow points from this button to the 'Mail Magazine' link in the bottom left corner of the page.

食品安全委員会
Food Safety Commission of Japan
内閣府

ホーム サイトマップ English page
サイト内検索 検索
文字サイズ拡大表示 A-A

重要なお知らせ

- **BSEに関する情報**
- **鳥インフルエンザに関する情報**
- **食品中の放射性物質に関する情報**
- **バーベキューやハイキングでの食中毒にご注意ください(食中毒予防のポイント) -NEW-**
- **食肉や内臓の生食について**
- **食品に含まれるトランス脂肪酸の食品健康影響評価の状況について**

お知らせ

- 2013.07.04 → 「食品安全委員会10年の歩み」を掲載しました。-NEW-
- 2013.06.17 → トルコ産外二ごまペースト及びその加工品の回収について(関係省庁の公表資料)
- 2013.05.29 → 国際獣疫事務局(OIE)による「無視できるBSEリスク」の国のステータス認定について(関係省庁の報道発表資料)

FSC For You

- 消費者の方向け情報 Click! >>
- お母さんになるあなたへ Click! >>
- キッズ Click! >>
- 動物関係など Click! >>

・FSC Views ・食品健康影響評価(リスク評価) ・意見・情報の交換(リスクコミュニケーション) ・会議開催予定と委員会の実績

食の安全についてのご相談・ご意見は…
食の安全ダイヤル
03-6234-1177
E-mail でも受け付けています。
[受付時間] 平日 10時～17時 / 休日・夜間開始を要

皆様のご意見を募集しています!
パブリック・コメント募集
Public Comment

50音順で検索できます!
ハザード情報
Hazard

情報がメールで届きます!
メールマガジン配信登録
Mail Magazine

「食の安全ダイヤル」にお寄せいただいたご質問等をまとめています。

新着情報

- 2013/07/02 食品安全委員会(第28回)の月10日(水)
- 2013/07/02 食品安全委員会(第23回)の(木)
- 2013/07/01 第480回食品関係部(6月)

専門調査会別情報
専門調査会座長名簿一覧
食品健康影響評価の審議状況[PDF]
* 添加物 * 農薬 * 動物用医薬品 * 器具容器包装 *

情報マガジン
・かひ...
・遺伝子組換え食品等
・新開発食品
・肥料・飼料等

こちらをクリックしてください♪

ご清聴ありがとうございました